

第 37 回 日本病院薬剤師会近畿学術大会 抄録

演題分類：14 がん領域

演題名：「クリゾチニブ及びアレクチニブの副作用発現状況に関する比較検討」

演者：○渡邊小百合、多々見俊輔、遠藤由里香、逸見 結衣、岸本早百合、伊勢原祐子
菰渕 利香、藤原 正幸、小田中みのり、安達 嘉織、佐倉小百合、中晴 徹
大前 隆広、川高 菜緒、大谷 祐子、見上 千昭、柴田 博子、松本 敏明

【目的】クリゾチニブは高い奏効率を示す一方で、耐性獲得や副作用発現頻度が高いことが問題であった。2014 年 9 月に販売開始となったアレクチニブはクリゾチニブ耐性例の約 50%に有効であり、副作用発現頻度がクリゾチニブより低いことが報告されている。当センターでは発売と同時に採用となり、クリゾチニブ既治療例に使用されているが、クリゾチニブで副作用を経験した患者はアレクチニブの副作用に不安を訴えることも多い。そこで、薬剤管理指導で適切な情報提供を行うことを目的として、両薬剤の副作用発現状況を調査し比較したので報告する。

【方法】2014 年 9 月～2015 年 7 月にアレクチニブを開始した患者を対象にクリゾチニブ及びアレクチニブ内服時の副作用発現状況について後方視的カルテ調査を行った。Grade(以下 G)は CTCAEv4.0 に基づき評価した。

【結果】対象患者は 10 名で男性 5 名、女性 5 名、平均年齢 57.7 歳(41-75)であった。クリゾチニブの副作用は全症例で見られ、肝機能障害は 8 例で G3-4 の重篤症例が 2 例あった。他 G3-4 は好中球数減少(G3:1 例)、血中 CK 増加(G4:1 例)で見られた。また高頻度で発現したものは視覚障害 8 例、嘔気 7 例、嘔吐 6 例、味覚障害 6 例であった(いずれも G1-2)。副作用による中止、休薬及び減量を要した症例は 9 例であった。アレクチニブの副作用は 9 例で見られ、G3-4 の副作用は血中 ALP 増加、Hb 減少、好中球数減少が各 1 例(G3)あった。高頻度で発現したものは便秘 6 例、血中 CK 増加 5 例であった(いずれも G1-2)。また、肝機能障害の発現は見られず、副作用による中止及び休薬を要した症例はなかった。

【考察】アレクチニブはクリゾチニブと比較し全体として副作用発現頻度が低く、特に肝機能障害で違いがみられた。また休薬を要した症例はなく、安全な内服継続ができていると考える。今後薬剤管理指導において、今回の結果を踏まえた情報提供を行い、患者の不安軽減とより安全な薬物治療に寄与したい。